

学生大使 実施報告書

氏名：安食こころ

学部・学科（コース）・学年：地域教育文化学部地域教育文化学科児童教育コース

派遣先大学：新モンゴル学園

派遣期間：2024/2/26～2024/3/11

1 日本語教室での活動内容

私は日本の漢字の日について取り上げ、2024年の抱負を漢字一文字でレタリングを用いて書くという授業をしました。私が担当した11年生(高校2年生)は、日本語のレベルが高かったため、漢字一文字で書くだけでなく、明朝体またはゴシック体で漢字を書くレタリングを体験できる授業にしました。抱負にしたい漢字が分からない時は、日本語や英語でコミュニケーションをとりながら授業を展開しました。早く完成した生徒には、日本語でなぜその目標にしたのか発表してもらいました。折り紙を4等分にして漢字を書く用紙にし、11年生の4クラス分の折り紙を大判用紙に貼って日本語祭りの日に掲示しました。また、担当の高校の授業でなく、高専の日本語の授業サポートも行いました。

2 日本語教室以外での交流活動

日本語教室以外の活動では、派遣期間に開催された日本語祭りがあります。日本語祭りは、現地の日本語クラブの生徒と協力して作り上げました。現地の人が思う体験したい日本の文化は私たちが想像していたよりも多く、意欲的で準備の段階から生徒たちと意見を出し合い作っていくことができました。また、小学生に折り紙とあやとり体験をする時間では、高専や高校生の方と違い、日本語が全く分からなくても、小学生達は英語やモンゴル語、身振り手振りでコミュニケーションをとろうとしてくれて、とてもうれしかったです。ホームステイ先の小学生がいた時は、英語で話したことをモンゴル語に訳してくれたり、あやとりのやり方を教える手伝いをしてくれたり、ホームステイをしているからこそ助けてもらえることがあったので、ホームステイの強みだと思いました。日本語祭りの高専の劇の指導も行いました。セリフの言い間違いや文章の区切る部分やイントネーションの訂正を細かく練習したので、本番では一生懸命劇をしている姿に感動しました。日本の昔話が異国の地で披露されたのは、日本人としても嬉しかったです。

3 参加目標への達成度と努力した内容

参加目標として、①教科書では分からない現地の特徴や良さ、人々を知ること②短い時間の中で密に現地学生と触れ、日本を知ってもらい、より好きになってもらうこと③現地に行き、日本の良さを改めて見つけること④教員を目指す気持ちをさらに高めることという4つを立ててモンゴル行きました。これらの目標を達成するために、学校では、現地の学生と観光や日本語祭り、ホームステイ先に帰るときに担当した学年の生徒と話しました。担当の学年ではない小学校にも行き、折り紙やあやとりを教えに行きました。ホームステイ先では、お子さんのいる家庭では一緒

【学生大使 実施報告書】

に折り紙や絵を描いて交流を深めたり、モンゴルでしかできない体験を自分から積極的に提案して連れて行ってもらったりしました。また、日本と違うところやモンゴルで疑問に思ったことをモンゴルの学生やホストファミリーに聞いたり、逆にモンゴルの学生やホストファミリーから日本のことについて聞かれて答えたり、交流を深めました。このようなことを意識して2週間過ごしたので、①～④の達成度は100%だと思います。教科書やインターネットで調べただけでは分からない乾燥していて寒い、交通渋滞が日常のモンゴルを肌で感じ、また、モンゴルの方は優しいと知ることができました。

4 プログラムに参加した感想

モンゴル派遣を通して、新モンゴル学園の英語と日本語の語学力が高いということが身をもって実感することができました。また、日本式の学校(新モンゴル学園)とはどういうことかについて考えながら生活しました。実際に新モンゴル学園がモデルとしている山形西高校は自分の出身校なので、挨拶と人を敬う気持ちに力を入れていることを知り自分の出身校が大切にしていたことをモンゴルで実践していることは誇りに思いました。授業では、学生たちの積極性がすごく、日本の学生もこのように積極的にいくことが必要だと気づくことができました。学校外では、モンゴルの課題もみることができました。日本よりも貧富の差があることや交通渋滞がひどく救急車が進まず亡くなる方がいること、ごみの分別がなく、街のいたるところでポイ捨てのごみがあることを知ることができました。新モンゴル学園の生徒やホストファミリーには、言語の壁を感じないほど仲良くしていただき安心して2週間過ごすことができました。2週間という時間はあっという間で、ホームステイだからこそできた経験が多く、私はモンゴルに行って本当に良かったと思います。

5 今回の経験を踏まえた今後の展望

今回、自分の立てた目標に、教員を目指す気持ちが高めることという目標があります。小学校や高校に行って、日本文化を伝えた経験を通して、子どもと関わる自分が好きなのだと改めて気づくことができました。高校では、教育実習のような経験をさせていただき、ホームステイでは実際に小学校の先生をしているお宅で日本もモンゴルも小学校の先生は忙しく、それでもやりがいをもって働いていることを間近で見ることができ、教員になりたいと改めて気づくことができました。この経験を励みに勉強を頑張っていこうと思いました。

また、新モンゴル学園の英語レベルの高さを授業や実際に学生と交流することで気づいたので、英語の教員免許についても取りたいと思うようになりました。日本では、テストのための英語の勉強で英語を学ぶことが嫌いになる生徒が多いですが、新モンゴル学園の英語の授業は何度も同じ内容を音読して英語を学ぶということ知り、国によって教え方は違い、良いところはまねて生かしていけると思います。夏には、新モンゴル学園でサマースクールがあり、もし大学の授業のスケジュールが合えば、また訪問したいと思いました。

6 現地での活動写真

写真 1: ホストファミリーとラクダに乗りました



写真 2: 日本語祭りでの折り紙コーナー



写真 3:小学生とあやとり



写真 4:チンギス・ハン広場

